

特集 MOVE KUMAMOTO 2023



ChatGPT活用で業務・サービス提供“刷新”

生成AIが生産性向上、顧客開拓、社員スキル向上に寄与

住宅プラン提案サービスにChatGPT搭載 若手営業マンの提案レベル向上を目指す LibWork

「●●のアイデアを3つ挙げてください」「●●について魅力的なキーワードを教えてください」「●●について教えてください」とさまざまな指示や質問を投げかけると、瞬時に答えが返ってくるサービス「ChatGPT（チャットジーピーティ）」。その回答精度の高さが大きな注目を集め、さまざまな活用方法から県内でも個人のみならず企業で導入やサービス提供が見られている。

「Generative Pretrained Transformer（生成可能な事前学習済み変換器）」という意の同サービスはOpenAI社が昨年11月リリース。自然言語でAIとのやり取りが可能で「生成AI（人工知能）」の一つで、日常会話のほか文章要約やデータ収集、リストや表作成、翻訳、文章の添削・リライト、企画・アイデア出し、マニュアル作成などさまざまな活用事例が挙がる。現在は無料版（ChatGPT）と有料版（Chat

GPT Plus）が利用可能だ。企業ではこのChatGPTをどのように使っているのだろうか。メタバースの活用や住宅関連のカテゴリーサイト、YouTubeチャンネル開設など「デジタルマーケティング」に注力する戸建て住宅・不動産販売の㈱LibWork（山鹿市鍋田、瀬口社長）は今年6月から、同社が提供する住宅プラン提案サービス「マイホームロボ」にChatGPTを搭載し、若手

営業マンの提案レベル向上につなげている。

マイホームロボは昨年6月、同社がCADベンダーの安心計画㈱（福岡市）と共同開発したクラウドサービス。設計の経験が少ない社員でもプランが作成できるよう、社内のほか雑誌やインターネット上などの全国の住宅プラン数千件の情報をデータベース化。

顧客がアンケートに答えると、このデータベースを基にAIがその顧客ごとの希望に合ったプランを考え、間取りや外観・内観の高画質CGパースを提案するもの。これにより10日程度要していたプラン作成が5分程

▲ふるさと納税運営代行事業のほか、ネット通販の順位付けなどにChatGPTを活用している

ト通販コンサルティングやネット通販受注代行、ホームページ制作の㈱サイバーレコードでは新入社員がクライアントへのアイデア出しや業務の優

ChatGPTの活用事例(くまもと経済調べ)

日常会話	文章要約	データ収集
リストや表作成	プログラムの自動生成	テンプレート作成
翻訳	情報収集	文章の添削 リライト
原稿作成	企画・アイデア出し	スケジュール管理
メルマガ メール作成	議事録の作成	プレゼン資料の 雛形作成
データ整理	関数の作成	資料作り
市場や競合他社 などの調査	マニュアルの作成	炎上リスクの判断

ChatGPT無料版と有料版の比較

名称	ChatGPT	ChatGPT Plus
料金	無料 ChatGPT-3.5のみ利用可能	有料（月額20ドル＝約2700円） 新技術 ChatGPT-4 が利用可能
特徴	・基本的な ChatGPT の機能を利用可能 ・文字数が制限 ・リクエスト数が制限 ・回答速度は速いが複雑な処理は苦手	・サーバー混雑中も優先的に利用可能 ・プラグイン（拡張機能）あり ・回答速度は遅いが質の高い回答が可能 ・画像での入力が可能

熊本県内の企業が次々と生成 AI（人工知能）「ChatGPT」を活用し、業務効率化や新規顧客開拓など新たなイノベーションを生み出している。本特集では ChatGPT を活用して成功を収めた企業例を取り上げ、その具体的な成果とビジネスへの影響について探求する。また、将来の展望にも目を向け、ChatGPT を利用することで企業が直面する可能性のある課題と、それに向き合うべきかを法律の観点から紹介する。県内企業が ChatGPT を通じてどのように変革し、成長していくのか、その興味深い道筋を紐解いていく。（編集部・堀悟史）

※タイトル、サブタイトル、リード文は ChatGPT が作成



増田 一哉
（株）サイバールコード社長

度で完了し、業務効率化や即時性などを実現している。今回、このマイホームロボにChatGPTを活用した経緯は若手営業マンの「提案力の向上」と話す瀬口社長。



瀬口 力
（株）Lib Work社長

迅速さやAI作成の提案文が好評

これまでマイホームロボは、AIが選り出した適切なプラン候補を基に営業マンが絞り込み、自身で提案文を作成していたが、ChatGPTを搭載することでAIがプランの特徴を自動で組み合わせ、即時に提案書が作成されるようになった。

「アンケートでお客様に提示する『日当たり重視』や『動線重視』といった各画像にキーワードをタグ付け。お客様が回答したキーワードを基にChatGPTがタグを抽出し、自動生成する。このため同じプランでも個々の要望に合ったコメントを可能にしている」と瀬口社長は特徴を説明する。

「顧客のもとへ訪問。経験年数を問わずプランを提案できる『平準化』を実現しているほか、ChatGPTが作成した提案文に興味を持ち、提案の迅速さを評価する顧客も多いという。マイホームロボ導入以前は顧客の要望をヒアリングした営業マンの伝達で設計士がプランを作成し、その後プランを提案。早い段階でも1〜2週間時間を要していた。『良いプランを作成しても残念ながら意に沿わず、そこで関係が途絶えてしまいい、時間をロスするケースもあつた。マイホームロボは短時間でさらに均一な提案書も作成できるので、その速さに驚かれています。業務効率化のほかお客様が熱が冷めないうちに提案できるスピード感もある」と効果を語る。

業界予測やメールの「リライアント」に活用 プログラミング教室の動画作成も生成AIで サイバールコード

ふるさと納税運営代行事業のほか、ネット通販コンサルティングやネット通販受注代行、ホームページ制作の（株）サイバールコード（熊本市中央区平成3丁目、増田一哉社長）では社内挙げてChatGPTを活用中だ。

社員が多いといい、増田社長は「業務のほか子ども勉強の問題や旅行の行程作成にも活用するなど、使い方はさまざま。中には奥さんに贈るプレゼントは何が良いかをChatGPTに尋ねる社員もいた」と笑う。

また、同社がオフィスを置くPARKNESSに開校した子ども向けプログラミング教室「サイガク」のPR動画にもChatGPTを活用。素材作成やシナリオ、台本作成などの作業を任せ、AI画像を作る別ソフトと合わせて数十秒の動画を作り上げた。

今後はディレクションやプロデュースなど「人の力」が必要とされる業務に社員を重点的に配置し、翻訳やデザイン、事務作業など代替可能な業務

していききたい」と瀬口社長は今後のさらなる活用に強い意欲を示した。

社員は「業務のほか子ども勉強の問題や旅行の行程作成にも活用するなど、使い方はさまざま。中には奥さんに贈るプレゼントは何が良いかをChatGPTに尋ねる社員もいた」と笑う。

また、同社がオフィスを置くPARKNESSに開校した子ども向けプログラミング教室「サイガク」のPR動画にもChatGPTを活用。素材作成やシナリオ、台本作成などの作業を任せ、AI画像を作る別ソフトと合わせて数十秒の動画を作り上げた。

今後はディレクションやプロデュースなど「人の力」が必要とされる業務に社員を重点的に配置し、翻訳やデザイン、事務作業など代替可能な業務

マイホームロボは自社で活用するほか、同業他社へも提供（1ライセンス月額6万8千円）。営業マンの経験やスキルに関係なく高いレベルで提案できるメリットから、全国の住宅メーカーから問い合わせが相次いでいるという。

「IR」活用も描く

将来的に企業ではChatGPTなどの生成AIに業務を任せられる部分が増え、よりクリエイティブな部分に人の力を充てる動きが進むのではと推察する瀬口社長。同社では今後、株主や投資家に対して投資の判断に必要な情報を提供する「IR」のリリースなどの業務にChatGPT

tGPTの活用を描いている。

「計算機やスマホがいつの間にか受け入れられ、当たり前に使われていることと同様に、ChatGPTも今後皆がそれぞれ使い、すべての業務に一度組み込まれる時代が訪れるのでは。セキュリティなどのリスクから敬遠する経営者もいると思うが、当社では将来性を見据え積極的に活用



▲昨年6月から同社が提供する住宅プラン提案サービス「マイホームロボ」。今年5月からは同サービスにChatGPTを搭載し、AIが提案したプランの特徴を紹介するコメントを即時に作成。営業マンの経験やスキルに関係なく、高いレベルでの提案が可能になった

モジュールに出品している商品説明からSEO（検索エンジン最適化）に反映させるために5つのキーワードを抽出してほしいといった指示などを出している。業務に使える部分は未知数なので、研究を重ねてどんどん開拓していきたい」と意欲を語った。



▲同社が運営する子ども向けプログラミング教室「サイガク」のPR動画にもChatGPTを活用。素材作成やシナリオ、台本作成などを任せ、AI画像を作る別ソフトと合わせて数十秒の動画を作り上げた

多機能アプリ「Notion」と連携

同社ではドキュメント機能やファイル保存機能、データベース機能、共有機能、タスク管理などを有するアプリ「Notion（ノーション）」のほか、ビジネスチャットツールの「チャットワーク」や、ビジネス向けクラウドツール「グループワークススペース」の3種類を主に業務で使用。今年はじめからこのNotionにChatGPTの会話や回答を紐づけた

「Notion」の試験運用を開始し、7月から本格導入を開始している。

同アプリは利用したい回答や提案をメモ帳やテキストツールへコピー・貼り付けする必作業を自動化するもので、同社はタスク管理やプロジェクト管理などに活用。

「東京の企業が多く利用しているのを見て実際に導入。これまで分散していた業務や情報が一元化され、DX化やコス

ChatG PT活用で業務・サービス提供“刷新”



渡邊 直登
アルサーガパートナーズ(株)
取締役
(フロンティアビジョンスタジオ代表)

一方、県内では法人や行政のChatGPT導入を支援するサービスを提供する企業もいる。ワンストップ型ITシステム開発スタジオ事業などを展開するアルサーガパートナーズ(株)(本社・東京都渋谷区、小俣泰明CEO・CTO)は今年3月、自社の業務情報を

学習した独自の専用GPT「Arsaga Insight Engine powered by GPT(アルサーガイサイトエンジン)」をリリース。業務効率化やコスト削減などに寄与し、大手企業などから問い合わせが増加している。

「ChatGPTはビル・ゲイツに『人生で二度目の衝撃』と言われ、世の中にパーソナルコンピュータが現れた時と同様の衝撃があった。経営

法人・行政の導入支援サービス開始 独自のGPT環境を構築 アルサーガパートナーズ

を対象に行っている研修プログラムの「即興のロールプレイング」で、顧客設定のシナリオ作りにも活用することを計画

章を読み判断する部分などをChatGPTに任せるとい

はないかと考えている。法人GAIだけではそこまでの活用方法を実現するのは難しいが、RPAツールと併用する

熊本市東区新南部6丁目のネットヨタ熊本(株)(井上雄一朗社長)もその一社で、同社は今年6月から法人向けのChatGPT活用プラットフォーム

「個人で使う人は多い」が、法人単位で導入するケースは熊本ではまだ少ない

先端なサービスをいち早く活用し、スマホが普及した時のようにChatGPTを当たり前のよう

企業はChatGPTを使用する場合に懸念されるのが「情報漏えい」や、入力した学習情報が収集されるなどセキュリ

ームを導入し、自社業務の効率化に向けて活用に取り組んでいる。

「昨年末頃からChatGPTに関する記事がWEB上で見かけ、文章作成やプログラミングのデバッグなどに使える

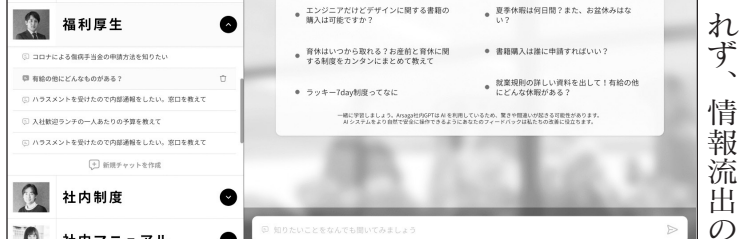
法人向けサービス導入で業務効率化狙う 社内向け文章作成などに活用 ネットヨタ熊本

「個人で使う人は多い」が、法人単位で導入するケースは熊本ではまだ少ない

「個人で使う人は多い」が、法人単位で導入するケースは熊本ではまだ少ない

先端なサービスをいち早く活用し、スマホが普及した時のようにChatGPTを当たり前のよう

同スタジオでは昨年末から専門のエンジニアチームによるChatGPTの研究開発をスタートし、今年3月に製品化



▲アルサーガパートナーズが今年3月にリリースした、アイデアチャットや社内情報に関する質問に回答する専用GPT「Arsaga Insight Engine powered by GPT」

陣が皆この技術を使ったサービスを展開し、ChatGPT開発のパイオニアになろうとスタートした」と事業の経緯を説明するのは、同社の渡邊直登取締役。

「社内独自のGPTシステムを構築すればOPeN AIの学習には使われず、情報流出のリスク

「自分ですべてをやらせておきたい方法が得られ、自身の勉強にもなる」といった声も挙がっている。

「情報の古さを解決するため、同システムではGoogle検索のAPI(ソフトウェアやプログラム、Webサービスの間をつなぐインターフェイス)と連携

現在では本社の事務担当社員が「社内外向け文章の雛形作成」や「新入社員募集時の文章作成」などに活用

「社内では今後、エクセルで管理する勤怠管理をシステム化するにあたり法人GAIを活用する

企業として利用する際に問題となったのが、入力されたデータが学習情報として収集される点

実際に利用しているのは2〜3人程度。全社員の割合では1%に満たない人数で使用



▲熊本市東区新南部6丁目のネットヨタ熊本本社



杉本 健吾
熊本市総務局デジタル部
デジタル戦略課長

東京都の㈱グラフィアが提供する生成AIの企業向けプラットフォーム「Graffiti AI Studio」を活用。特定の職員100人を対象に、同局デジタル戦略課、情報政策課の職員がリスクやルールなどを検討する「運用方針検討チーム」、改革プロジェクト推進課や政策企画課、財政課などの職員が業務上の利活用を検証する「利活用検証チーム」、希望する職員が文書作成やその他業務への活用の可能性を幅広く研究する「個人チーム」の3チームで構成する。

また、「前提条件として、職員が入力した情報が外部に漏れない環境下で実施」（杉本課長）と、入力した情報がChatGPTに届かないようにしている。また、同システムはエンタープライズ版（初期費用170万円から）を提供するほか、6月29日には無料で利用できる「SaaS（サブスクリプション）版」をリリース。「まずは無料プラン（SaaS版）から使い始め、有料プラン（ユーザー月額800円）やエンタープライズプランへと移行も可能」と渡邊取締役は提案する。

活用広がる一方 検証行為の重要性も

「各種申請書類の提出方法や取り寄せ先などが分からない新入社員や部署異動した社員からの問い合わせは、コーポレート部門の担当者が対応。当システムを導入することでそのやり取りがチャットで対応可能となり、業務効率化に大きくつながる。社員数が多い大企業ほどその恩恵が大きい」と説明する。現在、大手企業などから問い合わせが相次ぎ、すでに8社から受注。また30社に提案中で、40社近くが同システムを利用する見込みという。さらに今後は顧客や社員情報など機密性が高い情報を学習させた営業支援や顧客サポートの自動化なども計画している。

一方で誤った情報が出力されたことから、情報の正確性や妥当性を検証する行為「ファクトチェック」や、望んだ回答を得るために入力する命令文（プロンプト）の工夫も重要視される。「論理的な文章をプロンプトする力が求められるほか、教養がないとファクト自体が分からないまま進めてしまう懸念もある。本人のリテラシーをどう高めていくかが課題」と杉本課長は説明する。

「生成AIのような革新的なデジタル技術は加速度的に開発が進み、発展していくものと思われる。民間企業のほか官公庁や自治体でもChatGPTの活用が模索され、熊本市（大西一史市長）では6月1日から業務での活用に向けた「実証実験」を展開中だ。「生成AIのような革新的なデジタル技術は加速度的に開発が進み、発展していくものと思われ

今後では実証実験と並行し、業務への本格導入に向けた研究も展開。また



▲熊本市が6月6日に開いた職員向けの生成AIの研修会。約70人の職員が参加し、実証実験の概要説明や汎用的な使い方、活用事例を学んだ

「生成AIに仕事を奪われるというネガティブな声も聞かれるが、拒絶するのではなく、生成AIを人間が使いこなす、共存共栄することが望ましい未来になるのでは」。



▲熊本市南区江越2丁目のアルサーガパートナーズフロンティアビジョンスタジオ

「生成AIのような革新的なデジタル技術は加速度的に開発が進み、発展していくものと思われ

民間企業のほか官公庁や自治体でもChatGPTの活用が模索され、熊本市（大西一史市長）では6月1日から業務での活用に向けた「実証実験」を展開中だ。「生成AIのような革新的なデジタル技術は加速度的に開発が進み、発展していくものと思われ

今後デジタルデータ化に取り組み際には「AIに読み込ませる前提」の形式を進めることを呼びかける。「デジタルデータを今すぐ使うは無いにせよ、その下地を整備することでAIとの連携が容易になり、デジタル化に要するコストや期間、人的労力が軽減される。中小企業は先を見据えてデジタル化に目を向け、1丁目1番地で取り組むべき」と促している。

「生成AIに仕事を奪われるというネガティブな声も聞かれるが、拒絶するのではなく、生成AIを人間が使いこなす、共存共栄することが望ましい未来になるのでは」。

コーポレート部門の負荷軽減

同システムはエンタープライズ版（初期費用170万円から）を提供するほか、6月29日には無料で利用できる「SaaS（サブスクリプション）版」をリリース。「まずは無料プラン（SaaS版）から使い始め、有料プラン（ユーザー月額800円）やエンタープライズプランへと移行も可能」と渡邊取締役は提案する。

同システムを利用するメリットについて渡邊取締役は「人事や労務、総務などのコーポレート部門の負荷軽減」を挙げる。「各種申請書類の提出方法や取り寄せ先などが分からない新入社員や部署異動した社員からの問い合わせは、コーポレート部門の担当者が対応。当システムを導入することでそのやり取りがチャットで対応可能となり、業務効率化に大きくつながる。社員数が多い大企業ほどその恩恵が大きい」と説明する。現在、大手企業などから問い合わせが相次ぎ、すでに8社から受注。また30社に提案中で、40社近くが同システムを利用する見込みという。さらに今後は顧客や社員情報など機密性が高い情報を学習させた営業支援や顧客サポートの自動化なども計画している。

「中小企業デジタル化を」

同システムは大手企業からの問い合わせが目立つが、渡邊取締役は「地方の中小企業こそ人手不足であえいでいるので、コストダウンや業務効率化につながるデジタル化やChatGPTの導入などにチャレンジしていく姿勢が大事。先行投資して無駄な事は無い」と力を込める。

中小企業の課題は社内データがデジタル化されていない点やデータ化されても整理されていない点、またAIが読み込みにくいデータになっている点を挙げる渡邊取締役。このため中小企業が

今後デジタルデータ化に取り組み際には「AIに読み込ませる前提」の形式を進めることを呼びかける。「デジタルデータを今すぐ使うは無いにせよ、その下地を整備することでAIとの連携が容易になり、デジタル化に要するコストや期間、人的労力が軽減される。中小企業は先を見据えてデジタル化に目を向け、1丁目1番地で取り組むべき」と促している。

業務活用に向け3カ月の実証実験展開 リスクやルール 利活用などを検証 熊本市

民間企業のほか官公庁や自治体でもChatGPTの活用が模索され、熊本市（大西一史市長）では6月1日から業務での活用に向けた「実証実験」を展開中だ。「生成AIのような革新的なデジタル技術は加速度的に開発が進み、発展していくものと思われ

適切なリスク評価を行った上で積極的に活用を検討すれば、行政サービスの質の向上と業務効率化につながる」と期待される」と語るのは、実証実験を担当する総務局デジタル部の杉本健吾デジタル戦略課長。人口減少で労働力確保や生産性向上が求められる中、市ではChatGPTなどの生成AIを「補助的なツール」として、長所や短所を正しく理解し、有用性やリスクなどを適切に評価した上で業務効率化や市民サービス向上に利活用できるか取り組むもの。

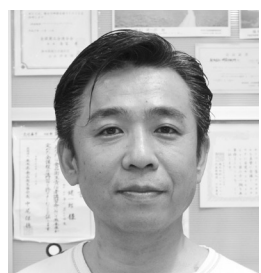
実験は自治体・官公庁向けサービスを展開する

ChatGPT活用で業務・サービス提供「刷新」

を付けるなど区切ればChatGPTが学習しやすくなる、「ChatGPTは新入社員を研修していくようなもの、抽象的ではなく具体的に教えることでスポンジのように飲み込んでいき学習していく」、「ChatGPTは『熊本で有名なお店は』など固有名詞の検索に弱い点や、21年以前の情報であることを留意すること。固有名詞を尋ねる『ググると、質問し答えてもらう』『チャットる』を使い分けてもらいたい」など参加者に説明した。

同セミナーはリアルタイムで行われたほか、好きなタイミングで見返すことができる「オンデマンド」として8月末まで配信している(要申し込み)。

また、同会では今後もSNSやLINE、インスタグラムなどスマートフォンがなければ取り組むことができるセミナーも予定している。「デジタルは実際に使ってみなけ



梅木 健一郎
梅星印刷所社長

同連合会のセミナーに参加した事業者はChatGPTへの期待や活用の話を聞いた。

熊本市東区八反田1丁目印刷所の梅木健一郎社長は、2005年10月に父親から代替わり。現在、2代目社長として名刺作成や伝票、封筒、チラシ、ポスター、パンフレット制作などを展開する。

同社はコロナ禍を機に経済産業省の「事業再構築補助金」を活用し、デジタル分野に着目。年配

り除き、推進する後押しになれば幸い」と古田課長補佐は同連合会が担う役割を語っている。

編集作業の「添削」に着目し受講
「人に伝えられる技術・知識習得」
めいせい
明星印刷所

者向けのパソコン教室や終活セミナー、写真に記録やポエムを添えた終活企画「ROOTS」、動画撮影などの新規事業を計画し「BtoB」から「BtoC」へのシフトを描いている。

「年配の方々からこれまでの半生を綴った自伝の制作を依頼されることも多いが、自分自身で文書を作成する方が費用も安価になる。そのスキルを習得する場として教室を開き、最終的には依頼や動画撮影事業にもつながれば」と新規事業への意気込みを語る。

梅木社長が今回セミナーを受けたのは、動画や紙媒体を制作する上でChatGPTを活用し、

やWEBサイトなどでの文章ではその思いを上手く伝えられず、苦手意識を持つ事業者も多い。ChatGPTを活用すると綺麗な文章を代わりに作成してくれるので営業力向上につながり、弱点を補えるのではないかと期待を寄せる。

「長所・短所見極めた利用が重要」

セミナー受講にあたり梅木社長はChatGPTのアカウントを作成しようとしたが、すべて英語で記載されたサイトに目し、「本当に正しいサイトなのか」と疑念を持ち、一度断念。

後日詳しい知り合いの助けを得て無事に登録できたが、「正しいサイトではなく偽サイトの可能性もあった。英語表記では抵抗感がある人が多いので、一度立ち止まり、正しいサイトなのか見極めることも大事」と実体験を語る。

めには流暢に説明できる技術や知識が必要。今後、多く接する高齢者の方からChatGPTについて尋ねられても、正確に答えられるよう利用方法や特徴などを学びたかった」と情報収集や知識習得もセミナーの受講理由に挙げる。

今回のセミナーは自身を含め、家族や社員がChatGPTを騙った偽サイトに騙されないよう正しい方向へ導き守る、「防衛」としての知識取得も大きいという。

セミナーの受講を経て、ChatGPTを上手く活用し、SEO対策を図る事も戦略的活用方法の一つであることを学んだ梅木社長。

「要約や膨らませ方、文章確認など予想していた活用法を教えていただき、当社のビジネスに生かせるのではと自信を持

ChatGPTに関するセミナーも県内では多々行われ、県商工会連合会熊本中央区安政町、笠愛一郎会長が7月に中小企業・小規模事業者向けに開いた「DX・デジタル推進セミナー」でもChatGPTを取り上げている。

「小規模事業者の一番の弱点は社員が自分一人しかいなかったり、少人数であること。製品づくりから販売、営業活動まですべてを少人数で取り組まなければならない。デジタル化は大手企業だけでなくどんな事業者でも取り組める。また活用すれば大きな可能性がある

ると普及活動を行っている」と説明するのは同会組織運営課の古田敦士課長補佐。

同会は県から委託を受け、昨年度から中小企業や小規模事業者がECサイトやSNSなどのデジタルツールの活用を支援する「くまもと中小企業デジタル相談窓口」を設置。またセミナーも併せて実施することで、事業者の生産性向上や業務改善、需要開拓を推進してきた。

昨年度のセミナーではDX入門やインボイス制度、ECやSNSなどをテーマに行ったが、今年度はChatGPTとSEO(検索エンジン最適化)を組み合わせたカテゴリを新たに設置。その狙いとして古田課長補佐はChatGPTが誰にでも使え、事業者のライ

オンライン配信の「DX・デジタル推進セミナー」は7月18、24、27日、8月1日の全4回開催。ChatGPTのほか、店舗のレジや券売機のインボイス対応、DXの概念やメリット、始め方・手順、AIツールを駆使したマーケティング戦略などを講義する。

7月18日に行われた「これから始めるChatGPT×SEOセミナー」には製造業や接客サービス業、IT関連・広告・デザインなどの技術サービス業など県内の事業者約

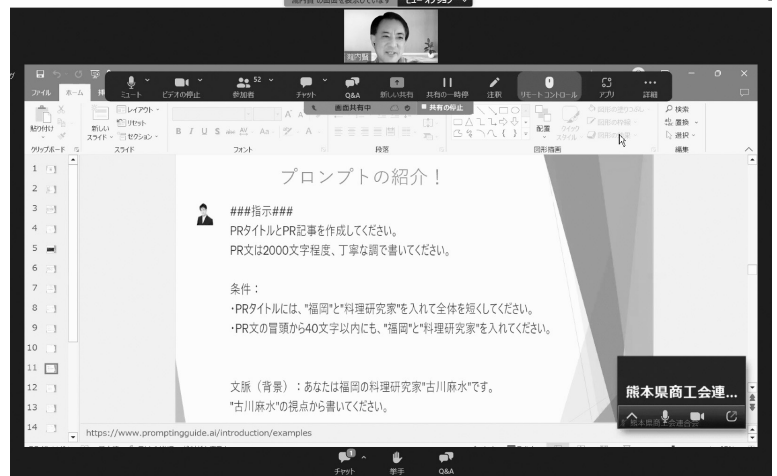
50人が参加。講師は福岡市のSEO事業(株)セブンアイズの瀧内賢社長が担当。

セミナーではChatGPTの登録方法から始まり、基本的な利用方法や無料版、有料版の違い、指示文要素の事例、ChatGPTが理解しやすいプロ

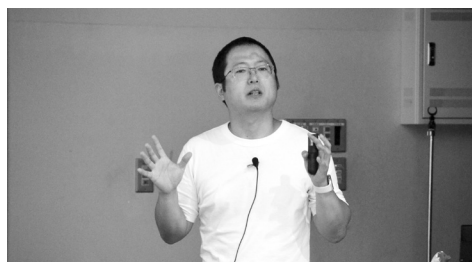
ンプト例、コンテンツSEOやWEBライティングへの活用などについて講義し、時折参加者からの質問に応じていた。

瀧内社長はセミナーで「プロンプトの技術が重要、これを鍛えることで手綱を握り、良い回答を引き出せる」、「ただ質問を書き連ねるのではなく、一つのことを言い終わったら改行する、条件

▲県商工会連合会がオンラインで開いた「DX・デジタル推進セミナー」。7月18日はChatGPTとSEOをテーマにSEO事業の(株)セブンアイズの瀧内賢社長が基本的な利用方法や無料版、有料版の違い、指示文要素の事例、ChatGPTが理解しやすいプロンプト例などを講演。約50人が参加した



ChatGPT活用で業務・サービス提供「刷新」



▲講師を務めた奥沢明(株)ナレッジコミュニケーション社長

本的な概念から活用方法のほか、学習や研究などにどのような影響をおよぼすかを企業や学生向けに講演した。約40人が参加した。

また、奥沢社長は「ChatGPTは莫大な情報を持ち、その中から適切なものを回答する。自分の知識を拡張するもの。操縦するのはあくまでも人間で、そのサポートをする副操縦士のような存在がChatGPTだと認識してほしい」と呼びかけ、ChatGPTを上手く使うには「プロンプト(命令文)」の重要さを挙げる。

奥沢社長はChatGPTを上手く使うにあたって8つの方法を提示。どのような状態で、どのような目的や理由で、どのくらいの時間を要するかなどの明確な指示を与える(①適切な指示)、質問に対して回答が膨大に出るので、何を知らたいかを適切にポイントや個数を絞る定義(②質問の再定義)、時間や個数を制限するなど自分が知りたい部分を適切にする(③情報の制限)、表形式・要約・リスト形式・詳細に説明・初心者にも分か

ChatGPTなどの生成AIがビジネスや自



▲熊本県立大学が7月6日に開いた特別講演会「ChatGPTの活用と影響:AIが開く新たな可能性」

「ChatGPTは『副操縦士』」

このほか奥沢社長はChatGPTの成り立ちや、そのほか生成AIサービス、無料版のChatGPT3.5とプラグ

イン(拡張機能)が付与された有料版のChatGPT Plus(GPT-4)の違いなどを解説。「無料版は高速だが複雑な処理は苦手、一方有料版は低速だがやり取りの裏まで想像した回答が可能」と解説したほか、旅行検索サイトとChatGPTを連携した検索方法も披露した。

りやすく、メリットとデメリットを比較など具体的な数値や形式を用いて分かりやすく指示する(④回答の形式を指定)、手順を順序立てて段階的に踏む指示を出せる(⑤ステップバイステップ)、ChatGPTに質問する内容を事前に知っているか否かを確認し、回答を求める(⑥事前知識を必要とするプロンプト)、

分の質問の意図を上手く理解しているかを再確認できる(⑧逆質問)の8項目を説明した。講演会終盤には参加者から「マイクロソフトは今後どう生成AIに取り組むのか」「学習させない機能はどう使えばよいか」「音声情報でGPTとやり取りすることは可能なのか」などの質疑が寄せられた。

諸問題への解決期待もリスク懸念



平和 大祐 トータルリペアecoサポート代表

「ホームページのSEO対策やブログの文章作成などを連合会の専門家にアドバイスを受けていたきっかけでセミナーを受講」と語るのは、熊本市北区で車の内装補修や外装コーティング業を展開する「トータルリペアecoサポート」の平和大祐代表。

福岡の大学卒業後、東京のファストフード店で勤務し、東日本大震災をきっかけにふるさとへ帰郷。「熊本でどのような仕事をしようかと模索する中で、技術をお客さまに提供することにやり甲斐を感じ、内装補修業に目を向けた」と思い立ち、(株)アミックス(本社・東京都新宿区)が展開する自動車のリペアフランチャイズ事業「トータルリペア」の講習を受講。その後、フランチャイズ契約を結び、2018年に事業を開始した。

また、7月6日には熊本本市東区月出2丁目の熊本県立大学(梶裕昭学長)で「ChatGPTの活用と影響:AIが開く新たな可能性」と題した特別講演会が開催された。

同大総合管理学部情報部門、くまもとプログラミング教育推進協議会、STEM Kumamotoが主催。AI×クラ

ウド事業、VR・AR事業などを手掛ける(株)ナレッジコミュニケーション(本社・千葉市川市)の奥沢明社長を講師に招き、ChatGPTの基

ブログ文章作成の手助けにトータルリペアecoサポート

「ホームページのSEO対策やブログの文章作成などを連合会の専門家にアドバイスを受けていたきっかけでセミナーを受講」と語るのは、熊本市北区で車の内装補修や外装コーティング業を展開する「トータルリペアecoサポート」の平和大祐代表。

現在「捨てない」「壊さない」「取り替えない」のエコ技術で、自動車のシート・ハンドル・ダッシュボード・内張りなどの色褪せ・擦れ・劣化などの部分的な気になる箇所の「内装補修」を出張施工するほか、熊本市内を中心に依頼を受けた中古車販売店の車の内装やコーティングなど仕上げの作業も多く手掛けています。

「ホームページでは補修やコーティングの施工を紹介するブログも執筆しているが「HPに入ってくださった方に興味を持っていただきたためには、どのようなブログを書けば良いのか悩んでいました」と今年2月頃から県商工会連合会にHPのSEO対策などで相談に訪れ、担当職員からの案内でセミナーを受講した。

受講を経て平和代表は「ChatGPTの始め方や検索の仕方などを分かりやすく丁寧に教えていただき理解できた。ブログの作成に関してChatGPTから情報を取り入れて、文章をつくってもらうほか、そのほか



▲車の内装補修や外装コーティング業を展開する同店。セミナー受講でホームページのSEO対策やブログの文章作成などに活用したいとしている

多種多様な使い方もあるのでは。まずは「やってみよう」と思っている。アカウントを作成し、プロンプトの指示文など使い方を学び、習得していきたい」と笑顔で意欲を語った。

活用法など学ぶ講演会に40人が参加「誰でも簡単に使えることが普及の要因」 熊本県立大学

ChatGPT活用で業務・サービス提供“刷新”



渡辺 裕介
県弁護士会会長
(渡辺総合法律事務所弁護士)

「弁護士業界では生成AIのサービスが契約書などの作成補助や文章要約などで有用なツールとして定着するのではと期待の声が挙がる一方、従来の業務がAIにとつて代わられるとの不安も聞かれる」と語るのは、熊本県弁護士会（熊本市中央区京町2丁目）の渡辺裕介会長（渡辺総合法律事務所弁護士）。

「弁護士ドットコム」によると、弁護士業務に生成AIが導入されることについて期待と不安のどちらが大きいかを会員弁護士146人にアンケートをしたところ、期待が47・9%、やや期待が26%、どちらとも言えないが12・3%、やや不安が6・2%、不安が3・4%と約7割が期待を寄せたという。

「中立的なAIが訴訟などの見直しを公平に示すことで、紛争の早期解決につながる」、「PCの活用が大きく広がっていく反面、使わないと取り残される」といった好意的な声のほか「個人情報問題が完全にクリアされれば書面作成は大幅にAIにとって代わり、弁護士業務の大半は感情労働になる」、「弁護士の調査方法として用いられるようになるが、一般人は真偽が判断できないため利用は困難」といった懸念の声も挙がり、各種各様の考え方が見られている。

「業界では意見が割れているが、尋ねた質問に対して広く普及している情報や論点を根拠にAIが的確に答えるので非常に有用なツール」と語る渡辺会長。その上でChatGPTを企業や個人が使う上で「著作権侵害」

を注意点に挙げる。第三者の文章生成の可能性もChatGPTの規約では、得られた回答の商業目的の利用は問題ないとされている。しかし第三者が執筆した文章などを参考にChatGPTが生成し、そのまま使用することでその著作権侵害のトラブルとなる可能性もあると指摘する。

「文化庁で『AIと著作権』の講演映像を公開したり、総務省で『ChatGPTなどの生成AIの業務利用に関する申合せ』が自治体に周知されたり、著作権関係を含めAI生成物もたらすさまざまな影響に関する対応と議論が進められている。弁護士がまず考えるのは、企業としてコンプライアンス上の問題なく利用できるかという点」。

また、渡辺会長は「情報の信用性」も重要視。アメリカでは弁護士が資料を作成する際の情報を

ChatGPTを上手く使うプロンプト(命令文)

種類	説明	プロンプト例
①適切な指示	どのような状態で、どのような目的や理由で、どのくらいの時間を要するかなど明確な指示を与える	(改良前) 英語の学習をしたい、どうすれば良い (改良後) 英語の学習を学習したい。初心者で3カ月くらいで日常会話ができるようになりたい。1週間単位でやるべきカリキュラムを作成してください。1日1時間程度の勉強を考えている
②質問の再定義	何を知りたいかを適切にポイントや個数を絞る	(改良前) ChatGPTと Azure OpenAI Serviceの違いは？ (改良後) ChatGPTと Azure OpenAI Serviceの違いをエンタープライズが社内利用する時に注意すべき項目を3つずつ挙げてください。
③情報の制限	時間や個数を制限するなど自分が知りたい部分を適切にする	(改良前) アップル社の創設者であるスティーヴ・ジョブズの功績を教えてください (改良後) アップル社の創設者であるスティーヴ・ジョブズの2000年以降の大きな功績を3つ教えてください
④回答の形式を指定	具体的な数値や形式を用いて分かりやすく指示する	表形式に～ 要約して～ リスト形式に～ 詳細に説明～ 初心者にも分かりやすく～中学生にも分かりやすく～ メリットとデメリットを比較して～など
⑤ステップバイステップ	順序立てて段階的に踏み出す指示を出す	これから ChatGPT や Azure OpenAI Service を学習するためのステップバイステップの方法を教えてください
⑥前知識を必要とするプロンプト	ChatGPTに質問する内容を事前に知っているか否かを確認し、回答を求める	提示する問題を一緒に解いてほしい。私はデータサイエンティスト初心者なので、データの中身からモデルを作るときや精度を上げる時にどんな見方やアプローチをする必要があるか丁寧に説明してほしい。さらに ChatGPT と連携することで今までより良いアプローチ方法があれば教えてほしい。
⑦想定される回答を例示	答えてほしいフォーマットを決めることで、役割やロールプレイのような形で自分の意図する回答を引き出す	レストランで注文を取るウェイターになったつもりで、お客さんにどんな料理がおすすめか尋ねたときの回答を教えてください
⑧逆質問	質問が自分の意図と合っているか逆の質問を組み合わせることで、ChatGPTが自分の質問の意図を上手く理解しているかを再確認	これから ChatGPT や Azure OpenAI Service を学習するにあたり、勉強が上手くいかなくなる、進まなくなる行為はどのようなものがありますか

(奥沢社長の講演内容から作成)

社の業務効率化などにもたらす期待や効果が大きい一方で、情報の正確性や信頼性、著作権の侵害、情報漏えいのリスク、サイバー攻撃に対する脆弱性、AI自体の倫理的な問題といった「デメリット」や課題も存在する。

また、人工知能に関する政策の司令塔機能を担う政府の有識者会議「AI戦略会議」は5月26日に論点整理をまとめ、「生成AIの登場は内燃機関の発明・IT革命と同じく、幅広く生活の質を向上させる『歴史の画期』となる可能性。また、生産性の向上・情報アクセスの改善など諸課題の解消も期待される」とした一方、機密情報の漏洩や個人情報への不適正な利用のリスク、犯罪の巧妙化・

懸念されるリスクの具体例と対応
(政府のAI戦略会議が5月26日発表)

- ・機密情報の漏えいや個人情報の不適正な利用のリスク
- ・犯罪の巧妙化・容易化につながるリスク
- ・偽情報などが社会を不安定化・混乱させるリスク
- ・サイバー攻撃が巧妙化するリスク
- ・教育現場における生成AIの扱い
- ・著作権侵害のリスク
- ・AIによって失業者が増えるリスク

容易化につながるリスクなども列挙。AI利用を加速するため、医療や介護・行政・教育・金融・製造などのデータ連携基盤の構築、人材育成・スタートアップの事業環境整備を進める必要があるとしている。